

## 学校図書館と市立図書館との連携 ～教科指導の中での連携～

### 1. 設定理由

2015年3月に千葉県教育委員会から発行された「千葉県子どもの読書推進計画」(第三次)では、市立図書館と学校図書館との連携の必要性を啓発している。

そこで、八街市では、2015年度より「学校図書館と市立図書館との連携～本でつながり、人・学校・地域～」と研究主題を設定し、様々なとりくみを行ってきた。

しかし、どの活動も図書委員会の子どもたちやボランティアとの交流で、広く全体の交流とはならなかった。

そこで、今年度は、より広く多くの子どもたちの学びの場での交流を図りたいとの思いから、教科指導の中で連携できないかと考え、本研究主題を設定した。

### 2. 研究仮説

市立図書館と学校図書館が連携することによって、学校図書館の環境や運営が充実し、市立図書館においても、子どもたちの読書活動がより活発になるであろう。

### 3. 研究内容

- 「としょかんへいこう」(小学1年 国語科)
- 「図書館へ行こう～分類をもとに本を見つけよう～」(小学4年 国語科)
- 「どうぶつ絵本いっぱい～くり返しのあるお話を作ろう～」(小学2年 国語科)

### 4. 結論

○学校図書館担当教員だけでなく、多くの教職員が市立図書館に足を運び、市立図書館司書と一緒に授業に取り組んだ。その結果、市立図書館と連携する良さに気づき、今後も市立図書館と連携しようという意欲を持つことができた。

○子どもたちは、学校図書館と市立図書館の違いに気づいたり、図書の専門家の図書館司書にふれることでその良さに気づいたりすることができた。子どもたちの市立図書館を利用しようという意欲を高めることができた。

○市立図書館に、子どもたちの作品を展示したことで、地域の人に学校での読書活動を知ってもらいきっかけ作りができた。

印旛支部

八街市立実住小学校

林 一美

八街市立朝陽小学校

入江 陽

## 「学校図書館と市立図書館との連携 ～教科指導の中での連携～」

### 1. 設定理由

2015年3月に千葉県教育委員会から発行された「千葉県子どもの読書推進計画」(第3次)では、市立図書館と学校図書館との連携の必要性を啓発している。

そこで八街市では、2015年度から「学校図書館と市立図書館との連携～本でつなぐ、人・学校・地域」と研究主題を設定し、さまざまなとりくみをしてきた。

具体的なとりくみとしては、

- ・読書ゆうびん「うちどくノート」
- ・読み聞かせ会
- ・紙しばい劇場
- ・ジュニア司書と学校図書委員との交流会
- ・学校ボランティアに対する実務講座

などを行ってきた。

そんな中で、

○市立図書館司書と学校図書館担当教員がより専門的な知識や技能を得ることができた。

子どもたちの実態に即した図書館運営をすることができた。

○学校図書館運営について、地域や保護者に対する情報発信を市立図書館の場を借りて行うことができた。

などの成果を上げることができたが、どの活動も学校図書館担当教職員や図書委員会の子どもたち、ボランティアとの交流で、広く全体での交流とはならなかった。

そこで、今年度は、より広く多くの子どもたちの学びの場での交流を図りたいとの思いから、教科指導の中で連携できないかと考え、本研究主題を設定した。

### 2. 研究仮説

市立図書館と学校図書館が連携することによって、学校図書館の環境や運営が充実し、市立図書館においても、子どもたちの読書活動がより活発になるであろう。

#### 〔実践の見通し①〕

市立図書館と学校図書館が連携することによって、学校図書館担当教員が、より専門的な知識を持って学校図書館運営ができるであろう。

#### 〔実践の見通し②〕

市立図書館と学校図書館が連携することによって、子どもたちが、より質の高い読書活動ができるであろう。

#### 〔実践の見通し③〕

市立図書館と学校図書館が連携することによって、地域の読書活動も活性化するであろう。

#### 〔実践の見通し④〕

市立図書館と学校図書館が教科指導の中で連携することによって、より多くの子どもたちが図書館を利用するよさに気づき、図書館利用の意識が育つであろう。

### 3. 研究内容

○小学校 第1学年 国語科「としょかんへいこう」(実践の見通し②③④)

#### (1) 内容とねらい

図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりすることができる。

(2) 単元の学習過程 (3時間扱い)

次	学習内容と活動	支援 (◇)・評価 (◎)	市立図書館活用
第一 次 二 時 間	<p>○市立図書館について知っていることを話し合う。</p> <p>○市立図書館に行き、市立図書館のはたらきや利用の仕方について話を聞く。</p>	<p>◇教科書の挿絵と実際の市立図書館を比べながら、市立図書館の使い方を理解させる。</p> <p>◇公共の施設で周りの人に迷惑がかからないように気をつけさせる。</p> <p>◎好きな本を見つけて読書しようとすることができる。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p>	<p>○実際に市立図書館に行つて、本を探したり読んだり、借りたりする。</p> <p>○市立図書館司書から市立図書館の基本的な利用方法を聞く。また、本の紹介を聞いたり読み聞かせを聞いたりする。</p> <p>○保護者にも参加を呼びかけ、市立図書館利用の意識をもってもらうようにする。</p>
第二 次 一 時 間	<p>○自分が読んだ本の中から気に入った1冊を選び、紹介し合う。</p>	<p>◇紹介した本を交換して読ませ、質問をしたり答えさせたりさせる。</p> <p>◎読んだ本のおもしろかったところを友だちに話したり、カードに書いたりすることができる。</p> <p>(読むこと)</p>	

(3) 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 子どもたちは、普段、学校図書館を利用している。今回、市立図書館を利用することにより、その違いに気づくことができた。
- 毎年「巡回おはなし会」は学校で行われている。今回、市立図書館を利用したことでいつもと違う雰囲気でおはなしを聞くことができた。また、休日に市立図書館で行われている「おはなし会」に興味を示した子どもがいた。
- 子どもたちが市立図書館に興味をもち、「夏休みに図書館へ行ってみよう。」という声があった。
- 市立図書館見学に保護者へも参加を呼びかけた。そのことで、保護者の「市立図書館利用」の意識も高めることができた。
- 1年生の子どもたちが実際に市立図書館を利用するかは保護者の意識によるところが多い。その意味では、今回参加できなかった保護者へどう啓発していけばよいか課題が残る。

○小学校 第4学年 国語科「図書館へ行こう～分類をもとに本を見つけよう～」

(実践の見通し①②④)

(1) 内容とねらい

市立図書館へ行き、「日本十進分類法」について知り、それを利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりすることができる。

(2) 単元の学習過程 (3時間扱い)

次	学習内容と活動	支援 (◇)・評価 (◎)	市立図書館活用
第一次 二時間	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ○書架の本が、「日本十進分類法」による「分類記号」や図書館による分類の仕方と並んでいることを知り、それをもとに本を探して読む。	◇日常生活の中から例を挙げ、「分類」すると便利であることに気づかせておく。 ◎「日本十進分類法」による本の分類の仕方に関心をもつことができる。 (関心・意欲・態度)	○市立図書館司書の話をして、「日本十進分類法」について知る。 ○「分類番号」をもとに本が書架に並んでいることを調べる。
第二次 一時間	○「分類記号」や「図書記号」などをもとに、読みたい本を探して読む。	◎「分類記号」や「図書記号」を手がかりに、自分の読みたい本を探して読むことができる。 (読むこと)	○学校図書館と市立図書館の配架の違いや工夫を比べる。

(3) 成果と課題 (○成果 ●課題)

○教科指導での連携だったので、学年で取り組んだ。そのため、図書館担当教員だけでなく、多くの教員が市立図書館に足を運ぶことになり、市立図書館との連携に興味をもつ機会となった。

○「日本十進分類法」の話を図書の専門家である市立図書館司書から聞くことができたので、子どもたちは、専門的な話をわかりやすく聞くことができた。

○市立図書館の見学ができたので、学校図書館との違いを調べることができた。

●本を探す活動では、ゲーム的な要素を取り入れるなど子どもたちが楽しんでとりくめる工夫をしたほうがよかった。

●最近の子どもたちは、調べる活動＝インターネット検索で何でも手軽に調べることができると思いがちである。図書資料を有効に活用して調べることも身につけさせたい力なので、学習活動の中で、積極的に図書館を利用していきたい。

○小学校 第2学年 国語科「どうぶつ絵本いっぱい～くりかえしのあるお話を作ろう～」

(実践の見通し②③④)

(1) 内容とねらい

本単元は、教材文「きつねのおきゃくさま」のくり返し出てくる言葉に気をつけて読み、くり返しのあるお話を作ることをねらいとした。学習にあたっては、「きつねのおきゃくさま」の読み取りと並行して、ブックリストにあるくり返しのあるお話の絵本を読み、想像をふくらませるようにした。

(2) 単元の学習過程（15時間扱い）

次	学習内容と活動	支援 (◇)・評価 (◎)	市立図書館活用
第一次 二時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きつねが出てくるお話の絵本を読み聞かせ、自分で考えたお話を作るというゴールのイメージをもつ。</li> <li>○全体を通読し、お話のおもしろかったところを中心に感想を述べ合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇読み聞かせを通して、学習への意欲を持たせる。</li> <li>◎読み聞かせや、ブックリストをきっかけに、くり返しのあるお話の多さやおもしろさに気づき、興味をもつことができる。 (関心・意欲・態度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市立図書館司書の協力を得て、くり返しのあるお話の絵本のブックリストを作成してもらい、並行読書ができるようにする。</li> </ul>
常時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書や学習の時間などを利用して、きつねが出てくるお話やくり返しのあるお話の絵本を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇多くのお話の絵本を読ませることで、自分が作るお話のイメージをふくらませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブックリストにある本を使って教室に「きつねが出てくる絵本コーナー」、「くり返しのあるお話の絵本コーナー」を作る。</li> </ul>
第二次 八時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○くり返しのあるところを意識しながら教材文の「きつねのおきゃくさま」を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇3回のくり返しがある部分をおさえながら、きつねの気持ちの変化を読み取らせる。</li> <li>◎文章中のようなすを表す言葉に気をつけて、登場人物のようすや気持ちを考えながら読むことができる。 (読むこと)</li> </ul>	
第三次 五	<ul style="list-style-type: none"> <li>○くり返しのあるお話の絵本を読み聞かせする。</li> <li>○自分の好きな動物を主人公にして、くり返しのあるお話を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇主人公の性格やできごとを考え、ワークシートにメモをさせる。</li> <li>◎どのような動物がどのような行動をくり返したか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○完成した本を市立図書館に置いてもらい、地域の人にも紹介する。</li> </ul>

時間	○完成した本を友だちと読み合い、感想を伝え合う。	を文章に書くことができる。 (ワークシート・書くこと)
----	--------------------------	--------------------------------

### (3) 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 教室に絵本のコーナーを設け、くり返しのあるお話の絵本やきつねが出てくるお話の絵本を読むことで、自分が書きたいお話のイメージを作ることができた。
- 自分の作ったお話を読んでもくれる相手がいることで、子どもたちに相手意識が芽生え、内容を考えたり、表現を工夫したりする意欲がみられた。
- 市立図書館に子どもたちが書いた本を置いてもらうことで、地域の人にも学校での読書活動のようすを知ってもらうきっかけになった。
- お話作りの活動では、教員が子どもたち一人ひとりに対応していくことになるので、時間がかかってしまう。
- 自分が読んだ絵本についてうまく活用できない子どもたちへの手立てをさらに考える必要がある。

## 4. 結論

今までの市立図書館と学校図書館との連携で学校側は、学校図書館担当者などの限られた教職員のとりくみであった。今回、教科指導というかたちでとりくんだので、今まであまり市立図書館を利用することがなかった教職員も市立図書館司書と一緒に授業にとりくんだ。そこで、図書館司書の専門性にふれることでそのよさに気づくことができた。

子どもたちにおいても、いつも使っている学校図書館とは違って、市立図書館は新しい資料も多く、資料が豊富であること、常時、司書という専門家がいて対応してくれることなどに頼もしさのようなものを感じることができ、市立図書館の利用意識も高まったのではないかと思われる。さらに、慣れ親しんでいて、限られた仲間だけが使う学校図書館ではなく、公共施設である市立図書館を利用することで子どもたちに公共のマナーを身につけさせる実践の場にもなったと思われる。

さらに、市立図書館司書の話聞くことで、いろいろな職業の人がいることに気づく機会にもなった。これは、キャリア教育の観点からみても意味のあることだと思われる。

子どもたちが、これから先、生涯学習や余暇の過ごし方を考えるにあたって、「図書館利用」を意識できるようにするためには、学齢期の頃から市立図書館への親しみを持つことが必要であると思われる。今後も学校として、積極的に市立図書館を活用していきたい。

今回の実践は、学区に市立図書館があり、徒歩ですぐに行ける学校とそうでない学校との実践発表である。双方、それぞれの利点や問題点があるのでそれをよく整理し、地域格差を無くしていけるような手立てを今後、考えていく必要がある。

図書館には、読書センターとしての機能と学習情報センターとしての機能の両面がある。市立図書館が学習情報センターとしての機能を高めていくためには、教育の専門家である私たち教職員が図書専門家である市立図書館司書と連携していくことが大切である。それが図書館の資料が有効活用され、子どもたちの自己教育力の育成につながればと思う。そういう意味でも本研究主題における「学校図書館と市立図書館との連携」はたいへん意義深いものである。今後も学校と市立図書館と「協働」でとりくんでいきたい。

# 資料編

おはなし会の実施



☆ろうそくに灯りをともして、おはなし会のはじまり。学級とは違う雰囲気になわくわく。



☆お誕生月の人が灯りを消しておはなし会はおしまい。

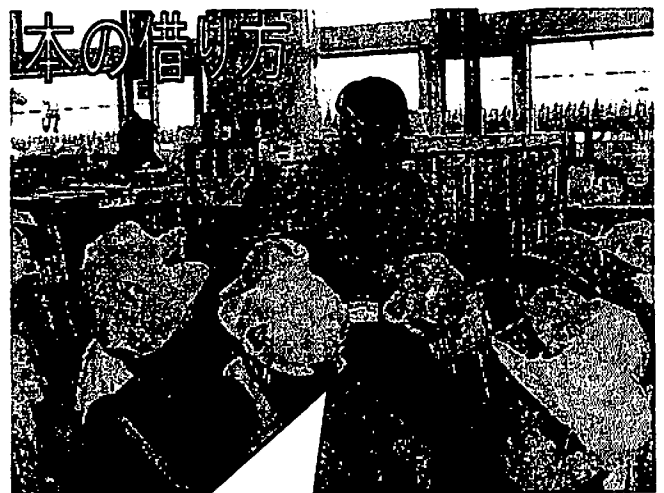


☆おはなしにみんな集中。

フロアに場所をうつしてのおはなし



☆1年生におすすめの本の紹介。



☆図書カードを使って、本の借り方を紹介。

- 学校図書館と市立図書館の違いに気づくことができた。
- 市立図書館に興味をもつことができた。



「図書館へ行こう～分類をもとに本を見つけよう～」

☆市立図書館の本は、どのように並べられているのだろうか。



市立図書館のフロアの様子



☆図書ラベルについての説明。  
学校のラベルとのちがいは？



☆具体的な数字を挙げての説明。



フロアでも、実際に本を手説明



・分類したら本が探しやすいことがわかった。

子ども達自ら書架を確認

○「日本十進分類法」について、くわしく知ることができた。とてもわかりやすかった。

○市立図書館の様子がわかった。学校図書館の様子も調べてみたいと思った。

第2学年 国語科

「どうぶつ絵本いっぱい  
くり返しのあるお話をしよう」

☆授業の導入で、きつねが出てくるお話の絵本を読み聞かせ、自分で考えたお話をするというゴールのイメージをもたせた。



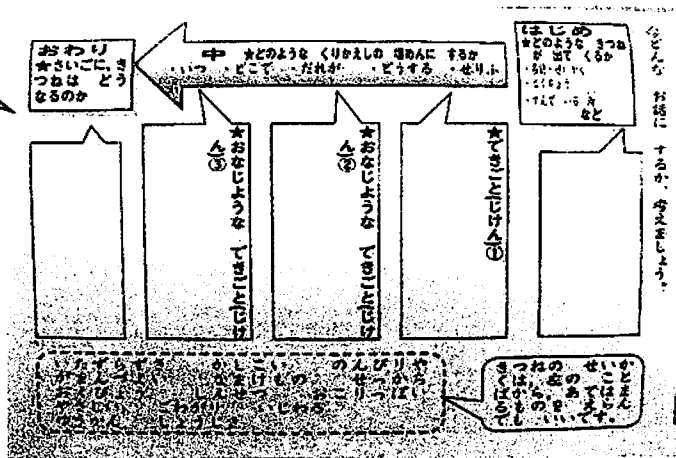
☆市立図書館でくりかえしのある絵本のブックリストを作成してもらい、朝読書や学習の時間等で並行読書させた。



### きつねの出てくる本

### くりかえしのある本

☆ワークシートを活用し、主人公の性格やできごとを考えさせた。(このときに主人公はきつねだけじゃなくてもいいことにした。)



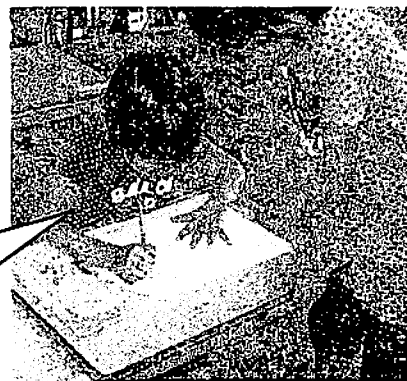
### ワークシートをもとに 話を書いているところ

### ワークシート

☆並行読書の本を参考にしたり、ワークシートのメモを活用したりしながら、くりかえしのあるお話を作っていた。

完成した本は、製本をして市立図書館に置いてもらい地域の人にも紹介をした。

☆完成した本を友だちにも読んでもらい感想を書いてもらうようにした。



### 友だちとの交流



### 市立図書館へ展示